

FICオープンセミナー報告

法政大学, 国際文化学部

(出版者 / Publisher)

法政大学国際文化学部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

Journal of Intercultural Communication / 異文化. 論文編

(巻 / Volume)

20

(開始ページ / Start Page)

228

(終了ページ / End Page)

241

(発行年 / Year)

2019-04-01

「卒業生による就職セミナー」実施報告

渡辺昭太

毎年恒例の「卒業生による就職セミナー」を下記の要領で実施しました。

■卒業生による就職セミナー

- ・日時：2018年2月22日（木） 18時～20時
- ・場所：法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー 26階 A会議室
- ・テーマ：「先輩に聞く自分にあった仕事の選び方とは？」
- ・構成：
 - 第一部：講師による座談会 18：00～19：00
 - ①卒業からこれまでの略歴、及び現在の仕事内容の紹介（各講師約5分程度）
 - ②就職活動を行うに当たっての心構え、アドバイス（各講師約1～2分程度）
 - 第二部：懇親会（立食パーティー形式で交流・個別相談） 19：00～20：00
- ・講師（敬称略）

氏名	期生	SA先	ゼミ	勤務先
木下真吾	1期生	モナッシュ	大嶋ゼミ	日本電信電話株式会社（NTT） 総務部門 内部統制室
及川静香	2期生	シェフィールド	森村・川村ゼミ	株式会社ブルースタジオ 広報担当
大熊明彦	3期生	中国	鈴木靖ゼミ	江東区役所 政策経営部 財政課
舘岡雅史	3期生	ボストン	甲ゼミ	株式会社イエノール 代表取締役
齋藤詩加	4期生	モナッシュ	山根ゼミ	損害保険ジャパン日本興亜株式会社 事務企画部（本社企画部門）
櫻井泰斗	4期生	ボストン	堀上ゼミ	トリップアドバイザー株式会社 マーケティング部 リサーチ担当
長門亜希子	4期生	シェフィールド	南塚ゼミ	日本コンベンションサービス（株） 営業企画室
原田真紀	4期生	シェフィールド	今泉ゼミ	國學院高等学校英語科、入試部
宇納佑	7期生	スペイン	田澤ゼミ	株式会社サイバーエージェント AWA
阿久津希梨子	11期生	スペイン	佐々木直美ゼミ	エン・ジャパン株式会社 人材紹介事業部

今回参加して下さった講師は10名で、会社員、公務員、教員と様々な職種の方にお話をさせていただきました。講師の年齢のバランスも良く、1期生1名、2期生1名、3期生2名、4期生4名、7期生1名、11期生1名でした。参加した学生は、当初の予定を大きく上回

る 62 名で、会場のボアソナータワー 26 階 A 会議室が満員になる大盛況でした。

各講師からは、卒業後の経歴から現在のお仕事内容、就職活動の際に必要な心構えなど、大変参考になるお話を伺うことができました。話を聞いている学生の多くが、非常に真剣にメモを取っていたのが印象的でした。

セミナー終了後は懇親会が開催されました。各講師に個別にお話を伺っていた学生もたくさんおり、こちらも大変盛り上がりました。

以上



セミナー



懇親会

シンポジウム「三遠南信——愛知・静岡・長野の越境連携を支える出版文化」

SJ 委員会

<パネリスト（敬称略）>

- * 沢田猛（全体／元毎日新聞編集委員、現中央大法学部兼任講師、本学社会学部卒）
「静岡・長野・愛知の県境域を歩き回っていたあの頃」
- * 味岡伸太郎（東三河／春夏秋冬叢書代表・編集長）
「ある地方出版社の存在理由」
- * 水島加寿代（遠江／雑誌『三遠南信アミ』取材・編集員）
「三遠南信アミ：雑誌創刊メンバーの想い」
- * 矢澤律子（南信／「みらい企画律」経営）
「『三遠南信ここが楽しい事典シリーズ』を出版して」

東三河（愛知県東部）・遠江（静岡県西部）と南信（長野県南部）が、県境を越えて政治的・経済的・文化的に連携交流する「三遠南信」という枠組みは、日本の越境連携のモデルケースとして注目を集めている。この一帯はもともと天竜川や豊川の水系であり、それが共通の風土や文化をもたらしてきた。

県境を越えた連携が実を結ぶには、行政や財界の働きのみならず、この3地域の住民が「三遠南信」という捉え方の意義を広く実感できることがまず必要であろう。そこで今回、三遠南信の魅力を人々に伝える出版言論活動を担ってきた、民間における活動に注目してみた。

沢田猛さん（本学出身）は、「毎日新聞」静岡支局時代、遠州と信州との接点に位置する青崩峠、塩の道、飯田線建設の功労者アイヌの川村カネト、久根鉦山のじん肺問題などを中心に、この三遠南信のテーマを先駆的に取り上げてきた。三河では、「東三河&西遠・西三河・南信応援誌」と銘打たれた季刊雑誌『そう（叢）』や「はるなつあきふゆ叢書」などの出版活動が、味岡伸太郎さんのもとの粘り強く継続している。遠州では、水島加寿代さんをメンバーとし、三遠南信に特化した雑誌『Ami（アミ）』がかつて17号まで出版され、貴重な経験を積んでいる。南信州では、矢澤律子さんの編集プロダクション「みらい企画律」が、三遠南信を大事なテーマの一つとして、出版活動や食文化のイベントなどを展開している。

当日は、以上の出版に携わる方々を三地域からお招きし、シンポジウムを開催した。約20人の参加のもと、出版言論分野における三遠南信地域連携の可能性や課題等を、具体的に検討する場となった。詳細は、飯田で発行されている『南信州新聞』の記者が取材に訪れ、

記事にしてくださったので、そちらをご参照いただきたい。

なお、法政大学国際文化学部では2012年度以降、南信州で留学生を主対象とした学生研修を実施しており、上記した雑誌『そう（叢）』と『Ami（アミ）』は、学部資料室の「飯田・下伊那文庫」にはほぼ全冊揃っている。今回のイベントは昨年夏、研修担当者の高柳俊男が、浜松市役所に事務局を置くSENA（三遠南信地域連携ビジョン推進会議）の新10年ビジョン策定委員に「南信州学識者代表」として任命されたことを契機に、企画・実施された。

- 日時：2018年7月7日（土）14：30～17：30
- 会場：市ヶ谷キャンパス ポアソナードタワー 3階 BT0300
- 内容：シンポジウム「三遠南信一愛知・静岡・長野の越県連携を支える出版文化」

2018年(平成30年) 7月27日 金曜日

南 信 州 新 聞

出版から見た越県連携

法政大でシンポジウム

法政大学国際文化学部のシンポジウム「三遠南信一愛知・静岡・長野の越県連携を支える出版文化」がこのほど、東京・千代田区の中谷キャンパスで開かれ、3圏域の出版関係者4人がこれまでの取り組みから見えてきたことを約30分に語った。

学生研修を南信州地域で続けている緑で、昨年からは三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）の新しい10年ビジョン策定委員会に南信州地域の学識者として出席している高柳俊男教授が「三遠南信の出版文化の営みをきくと位置づけ、地域連携の可能性や課題を具体的に考える場」と企画した。

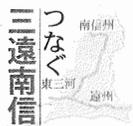
三信鉄道の建設にアイヌの測量隊が深く関わったことを聞き取りや調査で知り、児童書「カネト」など5冊書いた元毎日新聞編集委員の沢田猛さんは「地べたをほう虫の視点で見ると、この県境域は行政の矛盾の縮図でなく、魅力ある土地柄。行政に任せず、目を見開いて掘り起こせばもっといいものが出てくるはず」と話した。

春夏秋冬叢書（豊橋市）代表で書体デザイナーの味岡伸太郎さんは、美しさと十分な検討、校正を重視した季刊誌「そう」の編集方針を語り「中央からの情報を待つだけでなく、美しいものを地方から

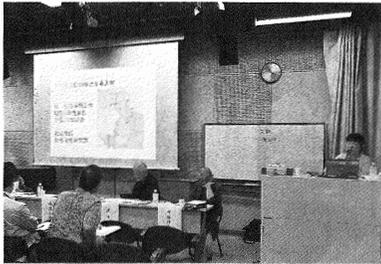
「発信していきたい」と意込みを語った。NPO法人三遠南信編集委員の水島加寿代さんは、2010年に創刊した冊子「Ami」(休刊中)とく的交流・魅力発信活動を振り返り、「神に畏敬の念を持つ三遠南信の生き方、暮らし方には現代の課題解決のヒントがあるはず」と話した。

高柳教授は「多くの個人や団体の営みの蓄積があって現在の至ったとあらためて知ったと同時に、まだ広く知られていない印象を受けた。これを機に交流や連携がより密接になり、県境を越えて発想することが実りやすくなる可能性がある」と実感できると話した。

シンポジウムは飯伊出身者や在任者、SENA職員、他大学の研究者、学生などが聴講した。



つなぐ
三遠南信



出版関係者がパネリストを務めた